

平成 30 年 12 月 2 日

学校法人東北柔専
仙台接骨医療専門学校
校長 島谷 俊美 様

学校関係者評価委員会
委員長 稲葉 泰三



学校関係者評価委員会報告

平成 29 年度学校関係者評価について、下記の通り評価結果を報告します。

記

- 1 学校関係者評価委員
 - ① 稲葉 泰三 (接骨院いなば 院長)
 - ② 小野 勇太 (仙台大学)
 - ③ 尾形 英大 (第 6 3 期卒業生)

- 2 学校関係者評価委員会の開催状況
第 1 回委員会 平成 30 年 11 月 17 日(土)(会場 仙台接骨医療専門学校会議室)

- 3 学校関係者委員会報告
学校関係者評価 評価票の通り

以上

平成 29 年度学校関係者評価 評価表

I. 重点目標について

1. 重点目標

- ・少子化時代における学生募集の対応と方策、国家試験対策の強化、時代に合わせた必要とされる柔道整復師の育成が必要である。
- ・国家試験対策の強化が、結果として H29 年度は発揮できなかった背景を詳しく分析し、より具体案を見いだす必要性があるのではないか。資格取得後の不安や、将来の展望をイメージしやすくできるように、モチベーションに関するアプローチとして、多方面からの心理的サポート戦略はどうか。
- ・国家試験の合格率がかなり低かったので、対策が必要だと思われる。
- ・学生募集活動については、OB や OG がもっと協力するべきと思う。
- ・夜間部学生獲得については、夜間部出身の人に体験談を話してもらうのはどうか。
- ・既卒者の支援の仕方は今までと同じでよいと思うが、既卒者のモチベーションを上げる工夫が必要。

II. 各評価項目について

1. 教育理念

- ・今までの歴史が残る柔道誠心の元、社会・現場での活躍と先を見る目標のある育成をしていただきたい。
- ・学生自身への、理念を理解させる取り組みとして、稲葉委員の提案にあるような、柔道から来る「礼」を普段の学校生活に取り入れてみると、更なる向上につながるのではないか。
- ・教育理念はとてもすばらしいと思う。上下関係や言葉使いが悪いと思う。また、医療従事者になるのに挨拶ができない人が目立つ。関わりがある無いにしろ、先輩・先生・外部の人に挨拶ができるようにした方がよい。

2. 学校運営

- ・少子化や学力低下が大きな問題ですが、入学と共に学生のモチベーションの向上をしていただきたい。
- ・入学者数減は学校運営にとって非常に大きな課題である。しかし、入学さえすれば良しと単純なことではなく、退学者減となるよう、HP やパンフレットでの周知において、柔整の「面白さ」と「厳しさ」のはっきりとした表現も重要と考える。ただし、「厳しさ」よりの周知で募集減とならぬよう、柔整の資格取得後の「面白さ」を PR していくことを強化してみてもどうか。

3. 教育活動

- ・学生の得意・不得意な科目の把握、改善の取り組みが必要と思います。
- ・H29 年はカリキュラム改定へ向けた調整中とのことで、新カリキュラム体制へしっかりと対応できるよう準備が必要。学生への自主性が最も重要課題とも思うが、現状意識の格差は年々拡大しているようでもあるため、教員側からクラスリーダー、またはグループリーダーを指名し、学生間の団結力を刺激する仕組みも必要ではないか。
- ・昼休み 50 分のうち、25 分ぐらいでいいのでクラブ活動（手技療法、テーピング、包帯など）を作ったらどうか（週 1 か 2 で）。

4. 学習成果

- ・学校側の先生の日々の努力の姿は大変でしょうが、一人一人の目の前、先の目標を作り、対応していただきたい。
- ・資格取得率はこれまでにない低率とのことであるため、結果の背景を十分に検討し、対策は急務と考える。近代は球速に SNS 等の普及もあり、学生環境の変化が伺える。伝統ある柔専校として良きものは継続しつつ、新時代に乗り遅れぬよう、学生ニーズの本質的理解と対応が今後の課題かと思われる。
- ・H29 年度に国家試験に合格した学生の共通点は、協力して勉強していたことである。成績不良者には、友人と共に勉強することを進めてみてはどうか。

5. 学生支援

- ・課外活動に関しても、様々な接骨院でも行っておりますので、機会を与えることも良いと思われます。
- ・経済的な支援体制として、学費の分納は非常によい。私も学生時代、この分納制により大変助かった。今後も継続してほしいと願う。尾形委員の提案にあった、柔整実技系のサークルの立ち上げと、それに対する支援があると、学生の意欲向上にも貢献できるのではないだろうか。
- ・適切であると思う。

6. 教育環境

- ・新校舎で学生の意欲も高まっていると思われます。OB の先生たちの意見も、先生たちが授業以外でも心から親身になっていただける指導と聞き、評価している。
- ・施設・設備・防災に対する対応に関し、非常にすばらしいと感じる。特に問題ないと評価できる。

7. 学生の受け入れ募集

- ・「医療・介護・スポーツ等の現場で活躍する柔道整復師」、「人を治す、手当てする、助ける、心のケアもできる資格」ということをホームページ、口コミ、OB からの発信等で広めると良いのではないかと。
- ・近年の就職者が多いことや、公務員志望が多いことは時代の波としては理解できる内容である。そのため、募集時の活動内容が従来通りでは、なかなか定員確保と結びつかないように思われる。更なる創意工夫が募集活動に求められるのではないだろうか。
- ・もっと、OB や OG の協力が必要だと思ふ。

8. 財務

- ・歴史と伝統のある伝統校ですので、愛情が一杯な学園であり、入学生が安心して通えるような学校運営をしていただきたい。
- ・入学者減への対策は、提示されている策に加え、学生達によるイベント（柔道教室、柔整トレーナーによるテーピングブースをスポーツ大会に参加）等を積極的に実践することを検討してはどうか。
- ・特に問題ないとは思ふが、入学者を増やし、中途退学者の減少を目指すのが望ましい。

9. 法令等の遵守

- ・引き続き教育水準の向上のため、強化していただきたい。
- ・個人情報に関する取扱は、教育機関として厳重にしておかなければ、問題発生時による損害は計り知れないため、十分な対応が求められる。
- ・規定等の整備が急務と思われる。

10. 社会貢献・地域貢献

- ・医療技術者として、地域・社会に向けて学生の若さ、そして前向きな活動を積極的に行い、学んでいただきたい。
- ・現状行っている活動を継続し、可能であれば頻度を増やすことや、HPにて活動を随時紹介していくことも学校PRにつながるのではないだろうか。近年のネット社会化に柔軟に対応していくことも、あらゆる対策としても良いと考える。
- ・積極的にボランティアの参加をした方がよいのではないか。